

2017年度日本語教育特別講演会実施報告

西原鈴子（特定非営利活動法人日本語教育研究所）

この度は、台湾の日本語教育を担う先生方とお話しする機会をいただき、光栄に存じます。ご参加くださった先生方が、教育者としての熱意に溢れ、日頃から授業の改善に積極的に取り組んでおられることを目の当たりにし、その職務に対する誠意ある姿勢に敬意を表します。以下は、私自身にとっても学ぶところの多かった2回の講演会についての報告です。

1. 実施場所・日時

- (1) 高雄：文藻外語大学 2018年1月20日（土）13:30～16:00
- (2) 台北：日本台湾交流協会台北事務所 2018年1月21日（日）13:30～16:00

2. 研修テーマ及び内容

(1) テーマ

「正しい日本語」から「楽しい日本語」へ

(2) 内容

- ・21世紀を迎えた教育界、特に言語教育界の新しい潮流と、それを支える研究および関連諸機関の方針を通じて、新しい時代における言語教育・日本語教育の目指す方向を見極めること。
- ・あらゆる教育のレベルを通じて、知識の伝授だけでなく、成人して社会に参加するとき十全に役割を果たせるように、自律的に行動できる準備をすることが教育界に課せられた責務であること。
- ・言語教育においては、習得した言語が学習者それぞれの人生における幸せにつながるように、教室のウチとソトを結びつける活動中心のカリキュラムを通じて課題遂行能力を育むことが必要であること。
- ・学習者が学習に対して意欲を持てるように動機づけられ、「楽しく」学習できるように授業実践をするのが教育者の喫緊の課題であること。
- ・カリキュラム目標を達成するためには、適切な教室活動によって学習者の意欲を高めることができること。

3. 感想と展望

高雄、台北両会場の参加者は、教育界の大きな潮流に関しては、すでに問題意識をもっておられる印象を受けた。「キー・コンピテンシー」、「21世紀型スキル」などの具体的改革提案や、活動中心のカリキュラムに言及した際に、深く頷いている参加者を認めることでそのことが分かった。事前アンケートにもそのような記述がみられ、事後のアンケートにも自分の問題意識と内容が一致したという記述がみられた。

その一方で、もっと多くの時間を教育実践にすぐに使える活動の紹介に使ってほしかったという声も聞かれた。後半の30分を活動紹介に割いたのだが、理論的な説明を省いてもその部分に集中したほうがよかったかもしれないと反省している。

「正しい日本語」から「楽しい日本語」への潮流は、現実的な取り組みとして、日本語教育の現場においてますます重要視されていくことを確信する。台湾の日本語教育界において、この課題あるいは類似の課題でのワークショップなどの企画が今後ますます活発化することを期待している。